

目次

受賞者一覧	P1
受賞作品の紹介	P2～P6
漫画化取材の様子	P7～P10
応募者からのメッセージ集	P11～P18

みおつくし福祉・介護の仕事 きらめき大賞2018

大阪市では、福祉・介護の仕事のイメージアップを図ることを目的として、福祉・介護の現場で働く職員の皆様から応募のあった**仕事のやりがいや魅力が伝わるエピソード作品**を表彰しています。

受賞作品は漫画化し、大阪市ホームページ等において公表するほか、冊子を市内の中学校や高等学校等に配布するなど、**福祉・介護の仕事のイメージアップに活用**します。

きらめき大賞の詳細は
以下のQRコードをチェック！



OSAKA CITY
大阪市



H31年4月以降は
こちらをご利用ください



受賞作品一覧



最優秀賞 **岡田 真弓 様** 「ヘルパーの仕事は、毎日楽しい」 **P2**

介護センター優美（株式会社K・T・S）

優秀賞 **今村 和也 様** 「夏の思い出（発見!!!）」 **P3**

障がい児者余暇生活支援センターじらふ（社会福祉法人ライフサポート協会）

優秀賞 **糸川 恵子 様** 「会長」 **P4**

株式会社日本介護医療センター

特別賞 **濱田 一也 様** 「幸せをもう一度」 **P5**

（高齢者支援部門）

北加賀屋1丁目のつるさんかめさんの家（社会医療法人三宝会）

特別賞 **尾埜 健二 様** 「天国のAさんへ」 **P6**

（障がい者支援部門）

社会福祉法人路交館



株式会社K・T・S
介護センター優美

岡田 真弓 様 『ヘルパーの仕事は、毎日楽しい』

当時、85歳の利用者さんは、夫とは死別されており、子どもはなく、お一人暮らしでした。ヘルパーの拒否があるので、部屋の中はかなり散らかっていました。
「まず、台所の食器などを洗って片付けさせていただきますね」と説明……
その後も一時間、何の会話もなく話しかけても無視され続けていました。
絶対に 話ができて 笑顔を見たい！ と思うようになりました。
他のヘルパーなどにも相談し、好まれている話題や好きな物などを問いかけたりもしました。
当時流行っていた韓国ドラマなどを好んで見ていることなどもわかり、
私は 録画して見るようにし 話題に出してみたり……
一年も過ぎると、通院や買い物にも同行できるようになり、若かった時の写真なども見せてくれるようになりました。
とても充実した日々を送っていましたが、別れは突然にやってきました。
入院して、約一ヶ月後、結局、意識は戻らないままで最後の挨拶はできませんでした。
亡くなってから11年以上たちますが、写真の向こうで笑っている顔を見るたびに初心に帰ることができます。
高齢者一人ひとりにも歴史があり こんなふうに いろんな経験や実体験を聞くチャンスはありません。
この仕事は、皆が思っているのとは違って、毎日にドラマがあります。
「ヘルパーの、仕事は毎日楽しくて仕方ない」 この仕事に誇りを持って働かせていただいています。



選考会委員 講評

利用者に寄り添い、信頼関係を築いていく様子が描かれている作品。
利用者の歩んできた歴史に触れ、自分自身が成長できる仕事であること、やりがいや誇りを伝えたいとの思いが表現されている。

A君は、中学生で、元気いっぱいの男の子。
自閉症で その場から動けなくなり、数時間同じ場所にいることもありました。
駅のホームで寝転んで 駅員さんに連れて行かれ 輪をかけてパニックになったことも……
頭のなかで、切り替えができるまでに時間がかかるだけ はじめの頃には それが解らず、何度も声をかけてしまい パニックになっていました。

和歌山県の海に行ったときのこと……

二人乗り用のカヌーと四人乗り用のボートがあり まずは四人乗りから挑戦！！
少し怖がっているようにも見えましたが、「一緒に漕ごうよ」と伝えと、少しだけ漕いでくれました。
その次は二人乗りのカヌーへ。 周りの景色を見たりのんびり海の散歩を楽しまれていました。
その後 私とA君は 2人とも真っ赤に日焼けして帰宅。

後日、お母様より、「カヌーが楽しかったようで、一生懸命思い出しながら書いていました」と連絡
絵日記を見せて頂くと、そこには、二人乗カヌーに乗っている、A君と私が……

ちゃんとライフジャケットも書いてくれていて、カヌーの色も…… 私のメガネまでしっかり書いてくれていました。

「よっぽど楽しかったんだとおもいます」とのお言葉も頂きました。 ほんま感動しました！！

今回の様に、成長していく瞬間に立ち会える事って素晴らしいと思いませんか？

福祉職ってしんどいイメージがありますが、確かにしんどい時もあります。でもそれ以上に、楽しいこと、感動する事がたくさんあります。障がいの有無に関わらず、その時 その時間を一緒に過ごせる事の大切さを改めて実感させられた出来事でした。



選考会委員 講評

さりげない文章表現の中にも、時間をかけて利用者に寄り添い、関係を築いていく作者の姿勢が凝縮されている。

利用者と気持ちが通いあった瞬間の感動や喜びなど福祉専門職の魅力が伝わる作品。

優秀賞

株式会社
日本介護医療センター

糸川 恵子 様
『会長』

一代で会社を築き上げた、会社社長。 認知症の進行により、サービス付き高齢者向け住宅へ入居
ご本人は転居したことを理解できず、環境に戸惑っておられました。

ヘルパーの訪問を拒否され「何しに来たんや」「帰れ！」と大声で怒鳴り、いつもイライラされていました。

今までの生活に少しでも近づけないか？ どうすれば安心していただけるか…？

自身の会社のパートさんを大事にされていたこと…… 周りから「会長」と呼ばれることが多い生活を送られていたこと……

何度も話し合いを進め 私たち介護チームは、決めごとを実施しながら本人に接するようにしました。

ご本人を「会長」と呼び、会社のパートさんのように振る舞い 敬意を持って話しかける というもの。

顔見知りだと思っていただくまで、ヘルパー自身が自己紹介してから 支援する

ある日の訪問 いつ怒鳴られるのだろうか？ と声かけをすると、「よっしゃ、行こか！」と

私は別の意味で（よっしゃ！）と心の中で思いました。

そうして しばらくすると、生い立ちや会社を設立した時のこと、次々にご自分の事を話してくださるように……

写真を人に見られるのが嫌な会長が、私たちに一生懸命見せてくれる ただただ嬉しく感じていました。

会長の最期は、自室で看取りを行うことになりました。

病気が深刻化して、今後について 話し合うこととなった時、私は 会長が 日本の壮絶な時代を 生きてきた姿に心を寄せ、これまでの経緯が、走馬灯のように頭を巡り、涙が止まりませんでした。

縁によって、人と出会い、介護をすることによってその人の人生に触れます。 介護職の重みは決して軽くはないけれど、人間 対 人間の不思議な関係性があり、他の職業にない気持ちを味わえる職業だと感じました。



選考会委員 講評

チーム一丸となって、利用者のこれまでの生活歴を紐解き、関係づくりのために奮闘する姿が描かれている。利用者の変化していく様子が、具体的な描写で生き生きと描かれており、臨場感あふれる作品。



特別賞
(高齢部門)

社会医療法人三宝会

北加賀屋1丁目のつるさんかめさんの家

濱田 一也 様 『幸せをもう一度』

舌がんで 舌の3分の2を切除した女性の利用者さん。 その影響から、普通の食事が摂れません。ミキサー食を提供していましたが、ほとんど手をつけることなく、次第に栄養ドリンクやゼリーで栄養補給をする形になりました。休日には一人で買い物に行き、食べたいものを買うのですが、食べることが出来ず……自然と笑顔も体重も減って行く毎日でした。

食べたい気持ちを叶えてあげたい、美味しい幸せをもう一度感じさせてあげたい……

ある日、友人とレストランに行き、運ばれてきた料理の盛り付けを見て、すごくワクワクしました。このワクワク感だ！と思ったのです。

食事という字は「人に良い事」と書く言葉を信条にしていた私は 一気にスイッチが入りました。

洋食のソースデコレーションや盛り付け、カフェのラテアートを 参考に出来ないものかと、家で何度も試作し、女性が喜ぶ感動する見た目と、味はレストラン同様に味わう料理に近づけ、健康で元気な人に提供する料理のミキサー食化を実現してみました。

そして、施設の先輩に「もう一度 ミキサー食を提供してあげたいのですが」と相談

食事を提供すると、ご本人が「わあ、美味しそう！」と言ったのです。

声を聞いたことが無かった私はそれだけでも驚きました

なんと、全量まではいきませんが私が作ったミキサー食を食べてくれました。

これからはもっと沢山の利用者様と出会い、おいしく食べる幸せな時間をサポート出来るように頑張り、私自身「成功者」ではなく「成幸者」に成りたいと思います。



選考会委員 講評

利用者支援の切り口を「食べる」観点に見出し、食事への意欲や喜びを引き出す過程が描かれている。自身を「幸せを成す者(＝成幸者)」と表現するなど言葉を大切にする姿勢や仕事に対する熱い思いが感じられる作品。



利用者のAさんはもう30年以上 入所施設で暮らしていて、親族もおらず天涯孤独
知的障がいと自閉症スペクトラム障がいがあり、生まれ育った地域から遠く離れた入所施設に入ることになったそうです。
Aさんは「施設から出て暮らしたい」という希望を持ち続け……グループホームを探していましたが、何度も断られていたそうです。
理由を聞くと「大声が出てしまう」とのことでした。

Aさんのグループホームでの地域生活がスタート 最初の夜のことです。Aさんの叫び声が炸裂しました。「ぶち殺すぞ！
しばき倒したるか!!」 みんな飛び起きてリビングに出てきました。実は……任侠映画に出てくるセリフを叫んでいるのでした。

ほかの利用者さん「なんやねんあいつ……」 最悪の印象で 始まりました。

その後も、おやつを一人で食べてしまったり。ほかの利用者さんと喧嘩ばかり……

今後どうやって支援していこうかと悩んでいましたが、それが変わるきっかけがありました。

ある日の受診の際 グループホームについて「B君と、C君と、D君がいるのがいいです。」と 一緒に暮らせるのがいいと
言ったのです。 喧嘩ばかりしているように見えて、お互いに思いやりながら暮らしている様子がわかってきました。

夜中の大声も落ち着き 作業所 皆と一緒に仕事 レクリエーション 一泊旅行……
非常に充実したものだったようでした。

そんなAさんの暮らしは突然終了…… 急性心不全

多くの仲間にもまれて そんな暮らしを提供できたことは、僕たちにとって 誇りです。

僕たちの仕事は 人の人生を豊かにする仕事 だと思います。人生が 意味のあるものになっていく。そのお手伝いができる
仕事です。



選考会委員 講評

グループホームに迎え入れ、充実した生活を送ることができるよう奔走・奮闘する姿が描かれている。
限られた文章の中にも、光景が生き生きと浮かび、利用者との出会いを大切にしながら熱意を持って向き合う
姿勢が感じられる作品。

受賞作品は漫画化されます！

- 本日各賞を受賞されました5作品については、大阪アニメーションスクール専門学校の学生さんの手により漫画化されます！
- 10月には、学生さんが受賞者の皆様のもとを訪問し、エピソードを漫画にするための取材を行いました！

取材の様子を少し見てみましょう



平成30年10月中旬、学生さんらのチームによる受賞者や所属法人への取材活動が行われました

最優秀賞

岡田真弓さん
「ヘルパーの仕事は、毎日楽しい」



↑ 受賞者の岡田さん（右）

優秀賞

今村和也さん
「夏の思い出（発見!!!）」



受賞者の今村さん



優秀賞

糸川恵子さん
「会長」



↑ 受賞者の糸川さん (右)



特別賞

(高齢部門)

濱田一也さん
「幸せをもう一度」



受賞者の濱田さん



特別賞

(障がい部門)

尾谷健二さん
「天国のAさんへ」



↑ 受賞者の尾谷さん
(右から2人目)



受賞作品は

大阪アニメーションスクール専門学校の
学生さんの手によって 漫画作品化 され
福祉・介護の仕事の魅力や素晴らしさを
多くの人に伝えるために活用されます

作品は2月末ごろ完成予定!

大阪市ホームページ等で公表のほか 冊子を作成し活用します



大阪アニメーションスクール専門学校

エンターテインメント業界の中で、人に感動や驚きを与え、世の中に貢献できる人を育てることを
理念とする関西の放送業界が創った学校です。

アニメ声優 コース	アニメソング コース	アイドル声優 コース	声優&スタッフ コース	アニメミュージカル コース	声優&アニソン コース
アニメーション制 作コース	アニメスタッフ コース	3DCGクリエイター コース	コミックイラスト コース	マンガ コース	小説家 コース
総合アニメ コース	エンターテインメント 総合コース				

今回
漫画作品化にご協力いただいた
学生さんたち



〒530-0042
大阪市北区天満橋1-5-9
0120-230-840 / 06-6242-5220

JR環状線「桜ノ宮駅」西口出口より徒歩9分
JR東西線「大阪天満宮駅」1番出口より徒歩9分
地下鉄谷町線・堺筋線「南森町駅」3番出口より徒歩10分



インタビューでは
「仕事のやりがいはい どんどこですか?」と
核心をついた質問も...

受賞者は
にこやかに、かつ熱く
仕事への 想いを語ってくれました

あらかじめ 受賞作品をじっくり読み込み、
質問内容などを まとめておられた学生さんたち

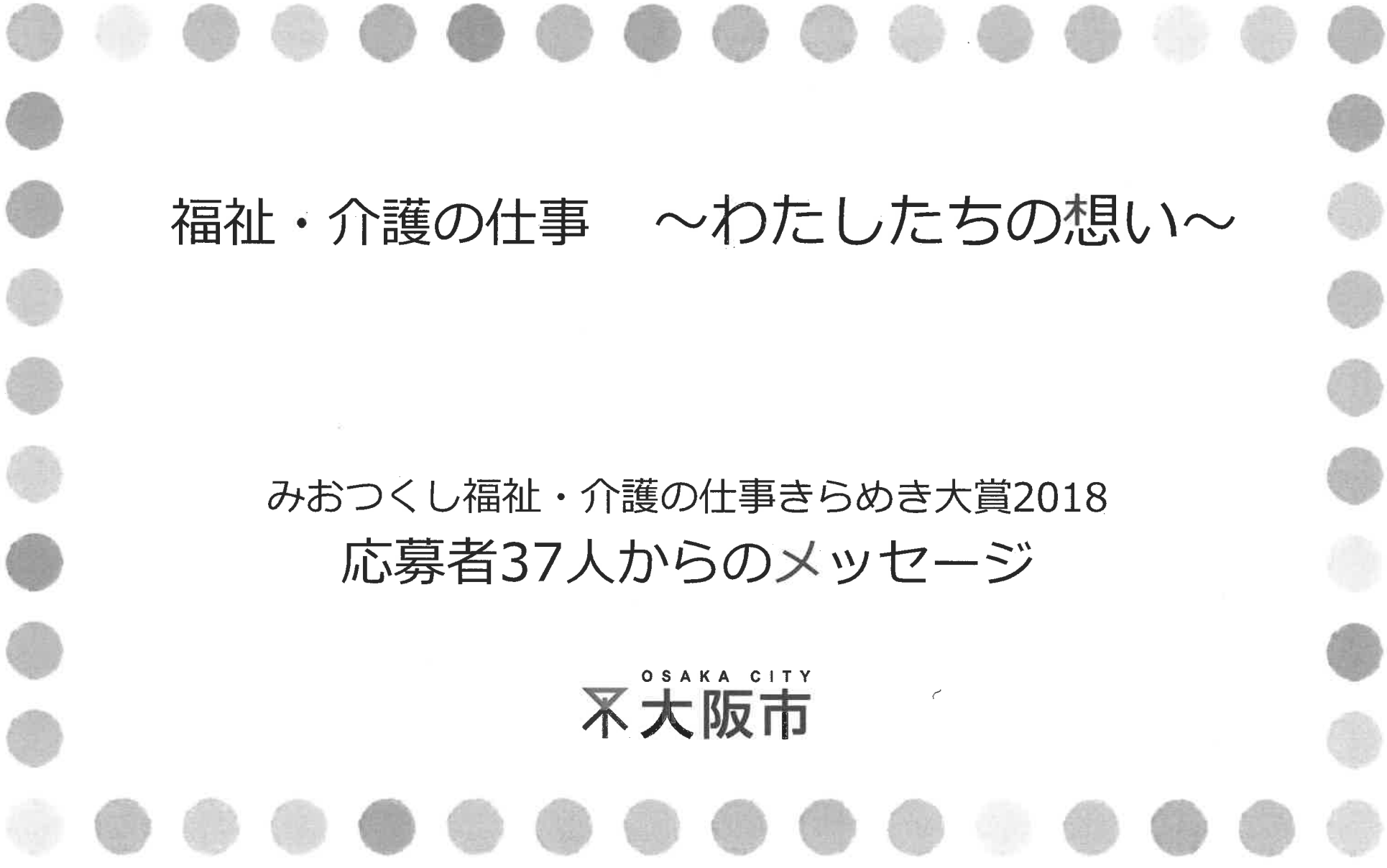


学生さんにとっては あまりなじみのない 福祉という世界



スマートフォンで
写真を撮りながらの取材活動

福祉の現場
そして 福祉の仕事をする人たちに触れ
「イメージが変わりました!」 という声もありました



福祉・介護の仕事 ～わたしたちの思い～

みおつくし福祉・介護の仕事きらめき大賞2018
応募者37人からのメッセージ

OSAKA CITY
大阪市

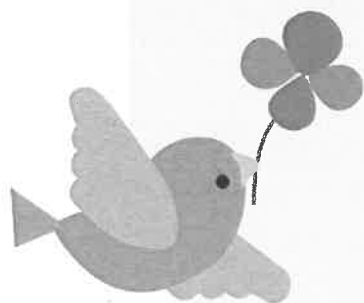


みおつくし福祉・介護の仕事きらめき大賞2018



福祉・介護の仕事って どんなふうに見える…？

ほんとうの姿を知ってほしい
わたしたちの思いをつたえたい



37の応募作品にこめられた
37人の気持ちを聞いてください



人生の終焉を
ご家族と共に見守り、お手伝いをさせていただく

これほど すばらしい体験は ないと思う

この仕事と 出会ったことで得られた宝物

職員みんなで 繋げていきたいと思う

「涙の瞬間」

特別養護老人ホーム ケアマネージャー

「…私たちにないかできることがないか考えてみようよ…」

「…笑顔にすることはできると思います」

それだ！ 誰もが顔を明るくしました。
わがホームは、なによりスタッフの元気が
自慢のホームなのです。

「わたし達にできること。」

有料老人ホーム ホーム長

「…もっと できることがあったかもしれない という気持ちは
忘れないようにしましょう」

「これからの介護に その気持ちを 繋げていこうよ」

入居者様の命と 真剣に向き合うなかで、
ひとりひとりが成長させていただける

この仕事の真髄なのかもしれません。

「命に向き合うことで、知る恵い」

有料老人ホーム ホーム長

帰りには 手を振り元気よく去っていき

最初の出会いから 大きな変容ぶりに涙があふれました。

「学校に行けるようになった喜び」

障がい児通所支援事業所 サービス管理責任者

まず「知る」ことからスタートし、
支援の根拠を学ぶ楽しさを実感してもらえる場に

支援者が 元気に、やる気のでる場所・時間を研修という形で
企画していきたいと思います。

「学ぶことで日々の支援を『したい』『してみたい』と
自立的に思う人材をふやしたい。」

障がい児通所支援事業所 サービス管理責任者

するのでしょうか！
なんと彼女の表情が和らぎ、
まるで、微笑んでいるかのように見えました。

またワンちゃんが来てくれますよ。
また、ワンちゃんと楽しい時を過ごしましょうね。

「お母さん、大好きなワンちゃんに触ったよ」

障がい児入所施設 看護師

「亡くなった主人も手があったかかってん。
…あの人の手、だいすきやったわ。」

その光景を前にして、 僕も涙ぐんでしまいました。

僕が 「福祉の仕事で生きたい！」と思う
きっかけになった話です。

「だいすきな手」

通所介護事業所 介護職員

初めての介護の仕事です。

入浴、食事や排泄の介助、
集団レクリエーションの司会をして、

利用者が 参加して 盛り上がり喜んでいただく姿を見て
一緒に共感する。

なんて素晴らしい仕事だろうと思いました。

「いつまでも心の温かさと優しさを感じることに」

特別養護老人ホーム 生活相談員

私の下駄箱に一通の手紙があるのを見つけました。

「怒ってくれてありがとう」 心が震えました。

子どもたちの成長、そして強さを感じる場面に立ち会えたときの

喜びや感動は、言葉ではたとえることができません。

「怒ってくれてありがとう。」

障がい児入所施設 管理者

介護の現場では、

ありがとうと言ってもらえたり
笑顔になってもらえたりすることが
喜びや やりがいになります。

一日に一度は 大笑いするような 言葉や出来事に会えます。

忘れられない出会いもいっぱいあります。
楽しい思い出もいっぱいあります。

「楽しいご家族との良い出会い」

特別養護老人ホーム 介護職員

入居者様たちは、
いつもと違う楽器で歌えるために 大いに盛り上がっていました。

どんなことでも 自分が楽しまなくては意味がありません。

どんなことをする時も
常に心をワクワクさせることを忘れない。

本当に勉強になる出来事でした。

「固定観念」

特別養護老人ホーム ケアマネジャー

ちょっとした事

でも その子にとっては 大きな事

これからも この「ちょっとした事」を
子どもたちの「大きな事」に変えてあげられるように

「ちょっとした事」

障がい児通所支援事業所

継続は力 無理強いしない 積み上げていく

こちらから提示してみて その反応を見つつ

好きかな 続けたい活動かな

と考えながら 組み立てています

「○○手芸部」

障がい児通所支援事業所 指導員

利用最後の日、

「先生方、いままでありがとうございました!!」と
大きな声であいさつしてくれました。

なんだか 立派になったなあ と

安心して見送ることができました。

「最後の日」

障がい児通所支援事業所 指導員

私たちの事業所を利用してきているAくん

私の事業所の先生になって働きたい!

と話してくれました。

びっくりもありましたが、うれしさの方が大きくて……

彼が、今の夢を忘れず、
将来、一緒に働けたらと思うと、
とても楽しみです。

障がい児通所支援事業所

サービス管理（提供）責任者

色々話をしてくれるAちゃんですが、
どこかまだ様子を伺っている感があり……

表情も感情を出した感じになっていきました。

まだ2～3枚猫が残っているのだ

その猫をぬがすまで

もっとがんばります!

「猫もぬがせばなんとやら」

障がい児通所支援事業所 生活支援員

以前は高齢者の仕事を7年していました。

お茶をお出しすると
「ありがとう」
……と言って下さいます。

そのお言葉をご利用者が笑顔で言って下さると

「やってて良かったな」
と思いました。

「ありがとう」

グループホーム ヘルパー（介護職員）

“明日、また来る?”

と笑顔で聞いてくれました。

その日の疲れがふっとぶくらい
うれしかった記憶があります。

その経験が、30年たった私に
勇気をくれているような気がします。

「大切な思い出」

障がい者支援施設 ボランティア

1年前 出会った時は言葉が出なかったのに
1年でこんなにも変わるなんて 子供ってすごいな…
と思いました。

そこに少しでも関わる仕事を
お手伝いが出来たのが喜びです。

「子供たちの成長」
障がい児通所支援事業所 指導員

毎日おしめ替えてた子が
一人でトイレに行けるようになったり

発語がなかった子が
いっぱい言葉を言えるようになったり…

今後も歩みは10倍かかるかも でも
その分 喜びも10倍以上の子供たちの成長を
見守っていきたいです。

「一歩一歩 前へ」
障がい児通所支援事業所 指導員

不思議と子どもたちの顔を見ると
つらいことを忘れて
自然と笑顔になれる自分がありました。

子どもたちは元気いっぱいパワーをくれて、
本当に助けられました。

「また子どもたちと一緒に過ごしたい。」
という気持ちになり、
再びお仕事させて頂くことになりました。

「ありがとう」
障がい児通所支援事業所 児童指導員

子どもたちは
とてもかわいい笑顔
を見せてくれました。

その頃のことを忘れずに、
子供たちの笑顔がたくさん見られるよう、

笑顔に元気をもらいながら、
この仕事を続けていければと思っています。

「笑顔が見たい」
障がい児通所支援事業所 指導員

私が今まで経験してきた子育てが、
少しでもお力になれたらと思い、
現在に至ります。

1つ1つ、出来る事が増えていき、
日々の成長が見守っていける

これからも、
みんなの笑顔を見続けていたら
うれしく思います。

「子供達の笑顔」
障がい児通所支援事業所 児童支援員

この仕事は、
みんな、いろんな成長を見せてくれるので、

こちらが毎日元気のパワーをもらえる、
やりがいのある仕事です。

「子どもの成長（児童発達支援・放課後等デイサービスに勤めて）」
障がい児通所支援事業所 児童指導員

利用者さんとの関係が
また一歩と深まる。

そのためには自分の本当の気持ちを、
時には率直に伝えることが必要なのだ
と感じた。

これからも自分の思いを伝えられるよう、
努力していきたいと思う。

「本当の気持ち」
通所介護事業所等 介護職員

通常業務の妨げにはならないか？
夜間に吠えないか？

柴犬「いおりちゃん」との触れ合いの結果
機嫌がよくない方が、笑顔になり、機嫌もよくなった。

昔を思い出して涙を流される。

「いおりちゃんの癒しの輪」が
広がることを期待します。



「『コンパニオンアニマル』の導入～笑顔いっぱいの施設を目指して～」
特別養護老人ホーム 介護職員

「ハワイアンパーティーをしよう！」

ユニットは笑い声で溢れていました。

最後に全員で「Aloha～」の掛け声で撮った
笑顔いっぱいの集合写真

たくさんの笑顔に繋がるような企画を
スタッフみんなで考え、形にしながら、
大好きな介護の仕事を続けていきたい。

「ようこそ、ハワイへ！トロピカル気分で Let's フラダンス♪」
特別養護老人ホーム 介護職員

ほとんど笑顔が見られない子
無理してこちらに合わせている子

様々な子どもがいる中で、
その中でも心からの笑顔を見れたとき

自分自身は成長していくことができるのだ
と感じています。

「日々の変化と毎日の積み重ね」

障がい児通所支援事業所

児童指導員

過ごす時間や向き合う姿勢次第では、
子ども達はこちらが想像している以上に
心を開いてくれる。

こちらの熱意の分だけ子ども達も応えてくれる。

非常にやりがいのある仕事
であると思う。

「3ヵ月」という信頼関係」

障がい児通所支援事業所

児童支援員

福祉の仕事の魅力は、

他の人を笑顔にするために働くことができるところ

子どもたちにとって、出来ることが増え、
認められる環境、いきいきと育っていける環境を
作ることができる。

「前はできなかったことが、今日はできた。」

私は 子どもの小さな成長 や 笑顔に幸せ を
もらっています。

「子どもの笑顔のために働くこと」

障がい児通所支援事業所

児童指導員

チャレンジすることによって

苦手であったことや、
できないと思っていたことが

「できるんだ!!」と言う自信につながり、

「こんなことができるんやあ」という
「大きな体験・気づき」ができたことは
大変貴重な機会 であった

「Try to your future ～未知への挑戦～」

日中系事業所

管理職

1つ1つの応募作品に込められた



“福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を伝えたい！”

“私たちの仕事はこんなに楽しいって知ってほしい！”

“利用者の人生に寄り添う仕事ってステキでしょ？”

という **あふれ出んばかりの想い** をご紹介しました



大阪市では、
皆様の そんなあつい想いを胸に、
福祉・介護の仕事のやりがいや魅力を
皆様と共に
多くの市民の皆様へ発信したいと考えています